

稲作情報 ^{かんす} (寒鋤き)

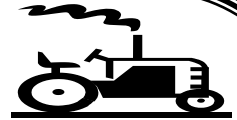
～寒鋤きの重要性を再確認し収量・品質向上を目指す！！～

3年産は、7月に雨量が無く、一部では茎数不足となったものの、8月に入り曇雨天が続き水不足も解消され、早生品種を中心に収穫期の風雨で穂枯れが散見されましたが、9月・10月は多照で経過し充実の向上につながりました。収量では坪刈のヒノヒカリ平均475kg（令和2年比130%、令和元年比107%）となりました。

水稲の収穫も終り、来年に向け**寒鋤き**を行い、田んぼを労わりましょう。

※隣の人が鋤いていなくても自信をもって鋤いて下さい。お互いに啓発しましょう！！

『田鋤き』をしましょう！！(寒い時ほど効果が大きい)



其の一、**ジャンボタニシ対策**になります！！

○ジャンボタニシは亜熱帯に生息していた貝なので、寒さには非常に弱いです。

また、田圃の5cm程度の深さに潜っており表面に露出させることで死滅します。また、貝殻に傷を入れるだけでも死滅します。(寒いほど効果あり)

其の二、**来年の除草効果**になります！！

○表面に落ちた雑草の種子を深く埋没させる事により、種子の発芽を抑えます。

其の三、**稲株の腐植を促進し、ガス害防止**になります！！

○田植え間近になって鋤いても昨年の稲株等の腐植が進まず、田植えした後に有毒ガス（株元が黒くなる）が発生し根傷みの原因になりますので、早い時期に鋤いて腐植促進に努めましょう。

其の四、**腐植物を酸素に触れさせ、稲の初期生育が良くなります！！**

○腐植物を表面に出して酸素に触れさせることで、窒素成分が発現します。この窒素成分は、稲の初期生育から徐々に供給されるので生育が良好になります。

高低直しと併せて寒鋤を行いましょう！！

また、寒鋤の前に土壌改良剤（ケイ鉄等）を施用しましょう！！